

## 名古屋大学大学院国際開発研究科公開講座募集要項

主催：名古屋大学大学院国際開発研究科

## 「途上国開発戦略の基本と最先端」

地球人口の8割を占め、今後の人口増加のほとんどを占めるようになる途上国の開発は、世界の大課題である。国連では2000年に「21世紀開発戦略(Millennium Development Goals)」を出したが、そこに込められた諸課題はどのような構成を持ち、実現可能性はどうか、そういう戦略でいいのか、多くの議論がある。現時点で、途上国の開発の現状、これまでの経過、今後の展望はどのようになっているのか、中間総括的な議論を提示し、参加者の世界認識向上に寄与する。

## 内容(予定):

## 1. 10月2日 国連21世紀開発戦略(MDGs)をめぐる議論(木村宏恒)

2000年の国連総会は、途上国に対する「21世紀開発戦略(MDGs)」を決議した。それは以後の世界の開発協力の基本戦略となった。その戦略はどのような開発協力の経験の上にてできたのか、そこにいたる議論を整理し、問題点を説明する。

## 2. 10月9日 途上国の貧困状況と貧困削減戦略の模索(岡田亜弥)

世界的なMDG達成へ向けた取り組みにもかかわらず、今日、約10億の人々が貧困状況にある。近年の貧困の再定義化の流れも踏まえつつ、途上国が今なお直面する深刻な貧困の状況を解説する。貧困削減のため、途上国政府やNGO、国際機関がどのような戦略・政策を模索しているか議論し、これらの実施上の課題を明らかにする。

## 3. 10月16日 途上国の環境問題と環境戦略 中国に焦点を当てて(櫻井次郎)

環境問題は国境を越える。特に中国における環境悪化は、黄砂や酸性雨、光化学スモッグなど日本にも直接の影響を与え、温暖化という形で地球規模でも注目を集める。経済成長が最優先課題とされるなか、開発による環境悪化が新たな貧困層を生み出すジレンマも見られる。本講義では、中国における環境問題の現状、環境戦略の方向性及びその課題について、現地調査の結果も取り入れつつ解説する。

## 4. 10月23日 紛争はなぜ継続するかーイラク、パレスチナへの平和構築支援の現状と課題(中西久枝)

2001年9.11事件以後、米国が開始した「テロとの戦い」は、中東の民主化を推進するためであるという主張のもとにイラク戦争をも引き起こした。「民主化」論の背後にある米国の中東政策の問題点をイラク戦争、パレスチナ問題を中心に解説し、平和構築支援のありかたを論じる。

## 5. 10月30日 農村・地域開発はどうなっているのか?(西川芳昭)

農業・農村開発の問題は開発途上国だけの問題ではない。我が国の農村の状況も踏まえつつ、農業・農村開発の問題を特に持続可能性の視点から議論したい。トピックとしては、農業における生産性の向上とはなにか、農村の自律的発展はどのようにすれば実現するのか、などについて現場の事例から解説をしたい。

6. 11月6日 **グローバリゼーションのなかの人の移動（高橋公明）**

人の移動のなかでも、いわゆる移民は、受け入れ国の課題であるとともに、送り出し国の課題としても認識されるようになってきている。高学歴、専門職の移民の帰国の奨励、移民の母国への送金、投資などである。受け入れ国、送り出し国の両者に拠点を持つようになった人々の母国での開発に寄与する可能性についても考える。

7. 11月13日 **教育開発と人材育成 - 開発の基盤形成としての位置づけ（北村友人）**

近年、途上国の開発政策に占める教育開発や人材育成の重要性が、広く認識されるようになってきた。そのため、国際機関やドナー国、さらには市民社会（NGO など）による基礎教育普及のための開発援助が、多くの途上国で幅広く実施されている。本講義では、途上国社会の基盤を形成するうえで、教育分野がどのような役割を果たしているのかを考える。

8. 11月20日 **結局政府がしっかりしないと（ガバナンス論議）（木村宏恒）**

国際機関や援助国は「内政不干渉の原則」のため実に歯切れが悪いが、多くの援助関係者の経験は「開発の主要な障害は経済より政治にある」ということである。一時はNGOに任せる議論もあったが、NGOの活動には限度があり、全国的に政策を実施できるのは政府である。民主化、地方分権、汚職対策、計画実行などの実態を説明する。

9. 11月27日 **NGOの台頭と途上国における市民社会の展望（野田真里）**

人々の安心・安全な暮らしを守る上で、国家の限界が認識され、人間一人ひとりに着目した、人間の安全保障の重要性が叫ばれている。その中で、NGOは人々の視点にたった第3の開発アクターとして脚光を浴びている。本講義では、NGO活動の最前線の実践と理論を踏まえつつ、NGO/市民社会の開発における意義と限界を考える。

10. 12月4日 **世界貿易機関（WTO）における途上国 現状と課題（川島富士雄）**

途上国は世界貿易機関（WTO）によって支えられる無差別かつ自由な世界貿易体制において、その活路を見出すことができるのか？WTOにおいて途上国が置かれている現状と課題を、WTOルールの概要、途上国に対する「特別かつ異なる待遇」およびそれらをめぐる改革論を紹介しながら説明する。

11. 12月11日 **経済成長戦略： グローバル化する日本・東アジアの成長モデル（大坪滋）**

「奇跡」と称せられた日本・東アジア諸国の高度経済成長はどのような社会経済システムに支えられていたのか。南・中央アジアやアフリカでは改めてその成功体験から学ばんとする機運が高まり、我が国の対外援助戦略の中でも自らの経験の見直しと応用が模索されている。グローバル化の波に乗った成功体験そのものがグローバル化するのであろうか。

12. 12月18日 **日本の開発経験の教訓は生かせるのか？（岡田亜弥・木村宏恒）**

近年、欧米よりすぐ身近で開発と成長を経験した日本の教訓で、途上国に活かせるものはないのかという模索が続いている。一村一品運動や生活改善運動などはその代表的なものである。しかしながら、社会的背景の差や個々の事例より、システムの移転可能性の議論もある。

**WWWページ：**

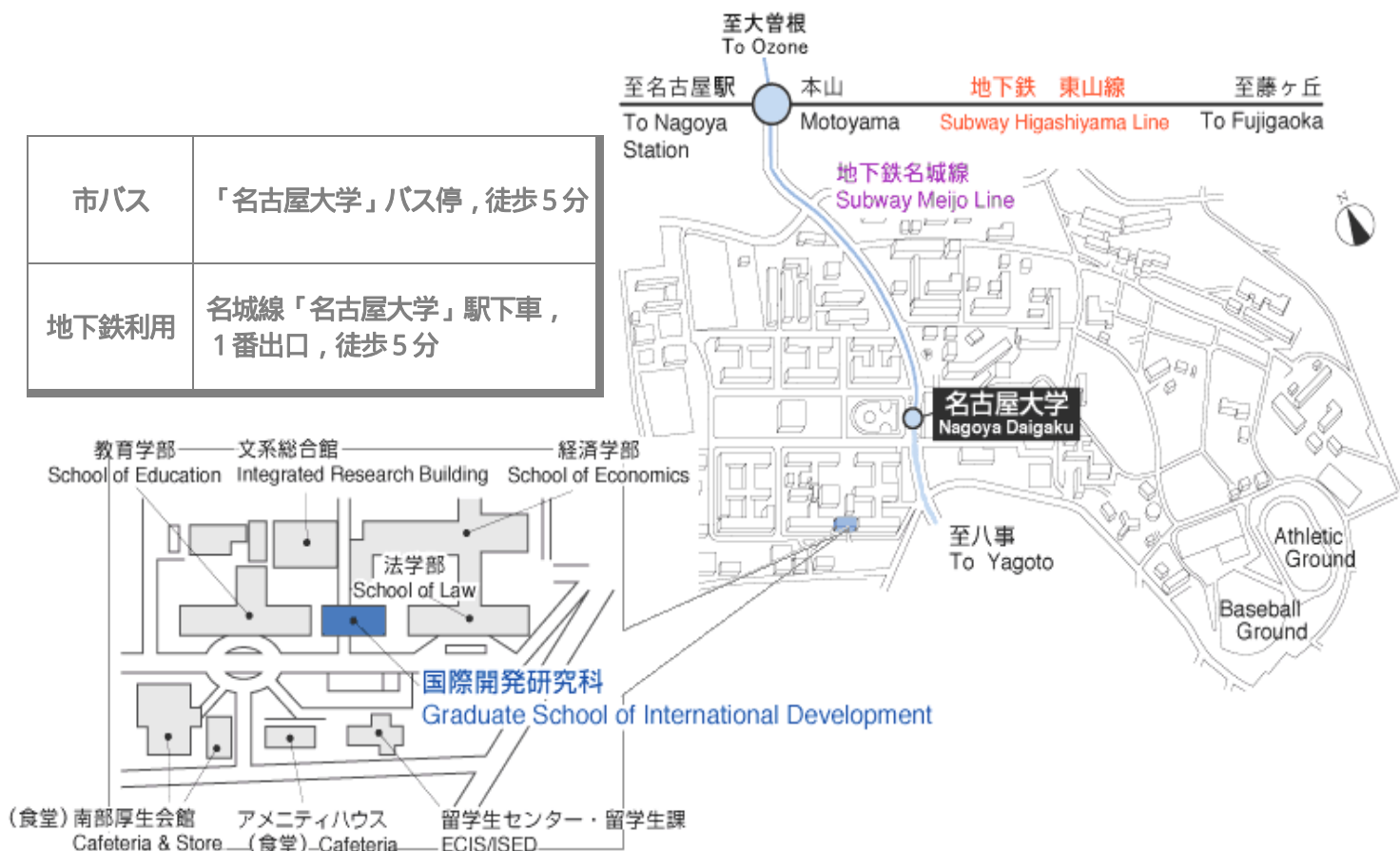
<http://www.gsids.nagoya-u.ac.jp/global/social/op-seminar/index.html>

本要項はWWWページからもダウンロードできます。

- 開催期間** 10月2日(火)から12月18日(火)までの毎週火曜日 18:00～20:00 (講義)  
原則として、全日程、参加できることを受講の条件とさせていただきます。
- 受講対象者** 大学生・大学院生・研究者・教師・NGO/NPO スタッフなど。一般の方も受講いただけます。
- 担当講師** 木村宏恒、岡田亜弥、櫻井次郎、中西久枝、西川芳昭、高橋公明、野田真里、川島富士雄、大坪滋、北村友人、名古屋大学大学院国際開発研究科棟・8階・多目的オーデトリウム
- 開催会場**
- 募集人数** 50名
- 受講料** 10,200円(テキスト・資料代を含みます。)
- 募集期間** 8月20日(月)から9月14日(金)(先着抽選とします。)
- 申込方法** 郵送に限ります。  
受講希望の方は、「受講申込書」に氏名・年齢・住所・電話番号・電子メールアドレス・勤務先・職業を、「受講票・領収証書・領収証書(控)」には氏名をそれぞれに明記の上、受講料(普通為替)及び返信用封筒(80円切手を貼付)を添えて書留郵便でお申し込みください。  
なお、書留封筒の表面左下に「公開講座受講申込」と朱書願います。
- 受講許可** 受講を許可した方には、受講番号を付した「受講票・領収証書」を折り返し返送します。受講を許可出来なかった場合には、お送りいただきました受講料はお返しします。
- 要項の請求** 本募集要項の必要な方は、返信用封筒(80円切手貼付のこと)を同封の上、下記申込先まで請求してください。また、<http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/global/social/op-seminar/index.html>からもダウンロードいただけます。
- 申し込みと問い合わせ先** 名古屋大学大学院国際開発研究科事務室  
住所 〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
Mail: [jimu-q@gsid.nagoya-u.ac.jp](mailto:jimu-q@gsid.nagoya-u.ac.jp)  
TEL: 052-789-4952・4953 [AM9:00 - PM5:00] FAX: 052-789-4951
- ホームページ** <http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/global>
- 個人情報** 「受講申込書」及び「受講票」に記載される個人情報は、当研究科が開講する公開講座のために必要な業務を行うために利用いたします。それ以外の目的のために利用、または提供することはありません。また、これら保有個人情報の管理や利用は「名古屋大学個人情報保護規程」に基づき適正に取り扱います。

## 会場案内図

市バス	「名古屋大学」バス停、徒歩5分
地下鉄利用	名城線「名古屋大学」駅下車、1番出口、徒歩5分



# 受講申込書

「途上国開発戦略の  
基本と最先端」

受付番号	受付年月日

の欄には記入しないでください。

フリガナ		年	
氏名		年齢	歳
	(男・女)		
住所	(〒 - )	番	
	☎( ) - 番		
電子メールアドレス			(読み易く書いて下さい。)
勤務先又は 学校名 (職業)	( )		

----- ✂ ----- 切り取り線 ----- ✂ -----

# 領収証書

## 受講票

受講番号	氏名

の欄には記入しないでください。

平成19年度	第 号	国立大学法人名古屋大学
(納入者)		
納入金額	¥10,200	
ただし公開講座受講料		
平成 年 月 日領収しました。		

納入された受講料は、いかなる場合でも返還できません。

----- ✂ ----- 切り取り線 ----- ✂ -----

## 領収証書(控)

平成19年度	第 号	国立大学法人名古屋大学	納入金額	¥10,200
(納入者)			ただし公開講座受講料	
			平成 年 月 日領収しました。	

納入者欄にご自分の氏名をご記入下さい。